

# 行歯会だより (第3号)

2005年8月 (毎月発行)

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会)

## ●「行歯会」会員数 250名突破！

「行歯会」の会員数は、7月28日現在で253名となりました。

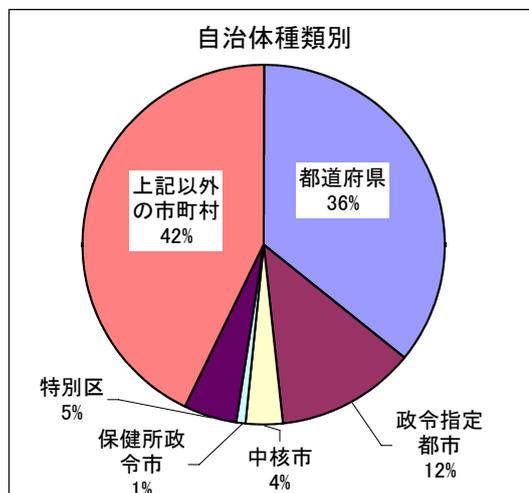
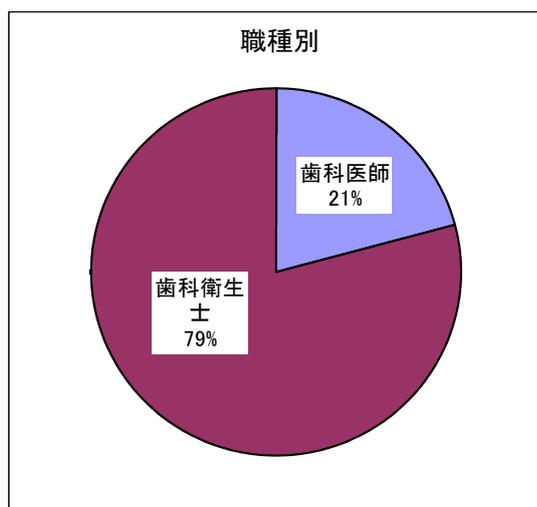
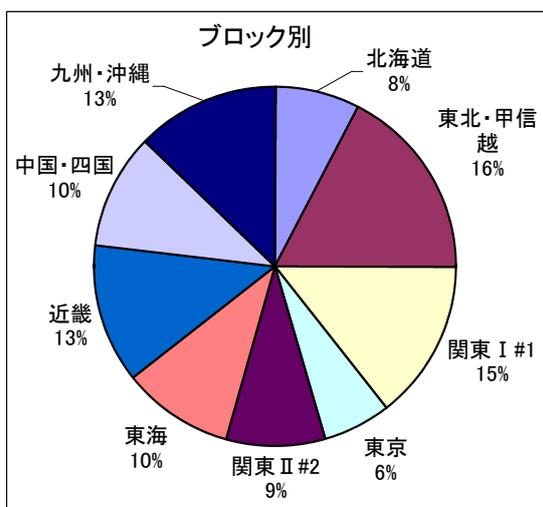
ブロック別・職種別・自治体種類別にみた内訳は下記の通りです。

	分類	会員数
ブロック別	北海道	19
	東北・甲信越	44
	関東Ⅰ #1	37
	東京	15
	関東Ⅱ #2	23
	東海	25
	近畿	32
	中国・四国	26
	九州・沖縄	32

	分類	会員数
職種別	歯科医師	53
	歯科衛生士	200
自治体種類別	都道府県	91
	政令指定都市	31
	中核市	9
	保健所政令市	2
	特別区	12
	上記以外の市町村	108
	計	253

#1 茨城・栃木・群馬・千葉県

#2 埼玉・神奈川県



## ●事業紹介(隔月連載)

### 島根県の成人歯科保健対策

梶浦靖二(島根県益田保健所・健康増進グループ課長)

#### 1. 歯周疾患対策の基本戦略

島根県ではかかりつけ歯科医におけるPMTCの定着を主眼に置いて、様々な取り組みを進めてきました。各地で行われている歯科健診の受診率は数% だと思いますが、歯科医院の受診率は35%(平成11年保健福祉動向調査)、定期的に歯科受診をしている人が13%(平成11年県健康調査)であり、歯科医院受診者をターゲットにした方が“緊急”で取り組むには得策と考えたからです。

#### 2. 8020チャレンジ事業(平成11~16年度)

この事業は、県内のモデル事業所で歯科健診の実施とあわせて、従業員の中から希望者を募集し(8020チャレンジ隊)、かかりつけ歯科医における簡単なPMTCを4か月毎、4年間実施しました。この事業のねらいは、歯周疾患予防のエビデンスの構築が大きなねらいでしたが、歯科医師会がフッ化物洗口の普及とあわせて、住民の歯を守るという姿勢を打ち出すことも狙っていました。

#### 3. 8020体験モニター事業(平成13~16年度)

8020チャレンジ事業を発展させたのがこの事業です。広く県民からモニターを募集し、簡単なPMTCを体験受診してもらうというもので、受診前後にアンケートも行いました(下図)。モニターの多くはPMTCに満足され、歯科医師会でも実施体制の基盤が整備されました。

#### 4. PMTCへの住民の理解向上

平成11、16年度の県健康調査では、「年1回以上歯科医院に行って歯垢や歯石などの汚れをとってもらおう人」の割合が13%→20%に増加していました。

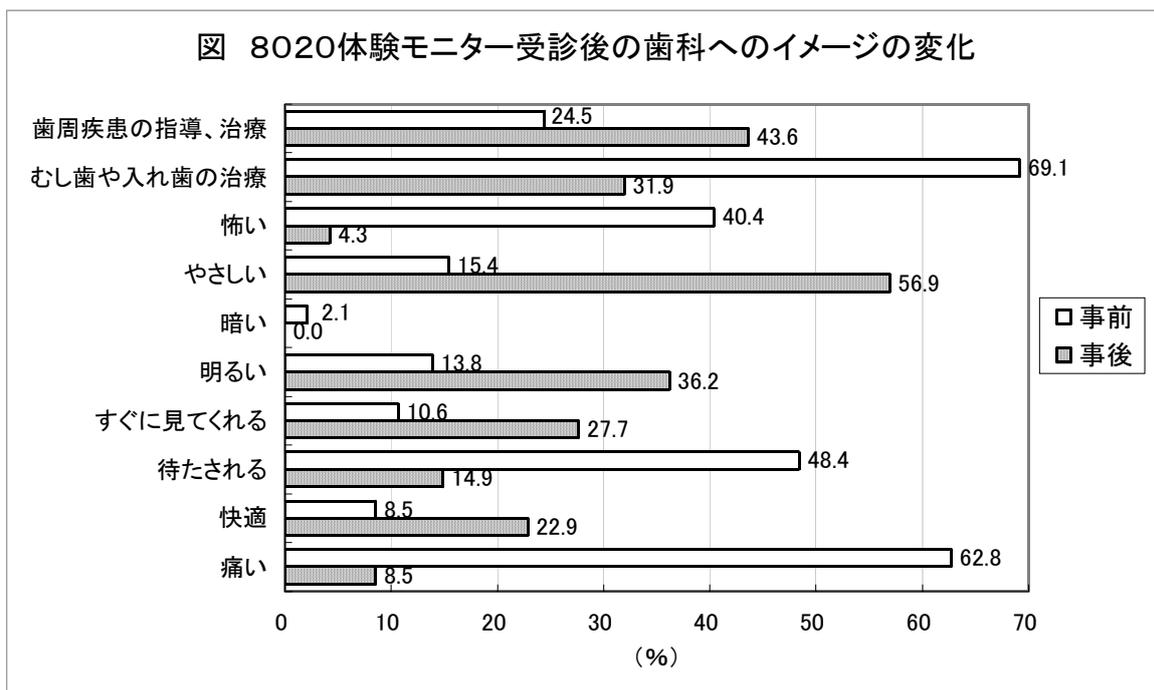
また、平成15年度に食生活改善推進協議会に働きかけ「歯にいいレシピ」を作ってもらいました。食改さんとの連携の苦肉の策でしたが、簡単にできるレシピがそろったので、意外にも健康まつりでは重宝され、連携が一気に深まりました。食改さんにはモニターも体験してもらい、自主活動等で「PMTCを受けると気持ちいいよ」などという声かけ隊になってもらっています。

#### 5. 最後に

「歯は命に関係しないから関心が低く、健診受診率も低い」といわれます。しかし、がん検診の受診率は8~22%とさほど高くなく、歯科健診の受診行動を住民の意識の低さに結びつけるのは短絡的であると考えます。

今は保健所に勤務していますが、「先生、今度〇〇地区で料理教室をするから、そのときに配る歯科のパンフレット頂戴!!」と食改さんが声をかけてくれます。住民の方々から元気をもらっているような気がします。

図 8020体験モニター受診後の歯科へのイメージの変化



## ●メーリングリストの話題から

長 優子(東京都江戸川区鹿骨健康サポートセンター歯科衛生士)

行歯会がスタートして3ヶ月になります。最初はどのくらいの方が参加して下さるのだろうかかと心配しましたが、現在会員数は250名を超え、メーリングリストも軌道に乗ってきました。“メーリングリスト”というものに初めて参加される方も多いかと存じますが、私もその一人です。最初はポツポツだったメールが、今では一日に何通も届き、正直言ってうれしい悲鳴です！あまりにたくさんのメールに戸惑うこともありましたが、受け取り方法を工夫して、この頃はだいぶ慣れてきました。どんな話題が飛び交うか毎日楽しみです。

メーリングリストの素晴らしいところは、即時、たくさんの方と情報交換ができることです。今までのメールを読んで感じるのは、「こんなこと聞いてもいいかな？」と不安に感じて、思い切ってメールを投稿すると、その問いかけに対しての返信が迅速で、複数の方が応えてくださっているのが、本当にありがたいなあということです。そして、そのメールを読んで共感している会員が多いことと思います。

さて、ここで今月の話題を振り返ってみたいと思います。

まず、一番投稿回数が多かったのは介護保険のことで、今、誰もが試行錯誤中、情報を欲しいと感じているタイムリーな話題です。今月やり取りされた主な内容は下記のとおりです：

- ・口腔機能向上マニュアル（案）について、現場からの声を反映させたいとのことで話題提供があり、意見交換がされました。その中で、正確な口腔機能の評価をいかに行うか課題の一つとしてあげられていました。
- ・介護保険での口腔ケアについて、言語聴覚士の活用がなされることを受けて、歯科衛生士の口腔機能向上への関わりについて意見交換がされました。
- ・医療行為と福祉サービスの違いから、歯科医師の関わり方も今後検討が必要と思われ、地域での取り組みが思案されていました。
- ・新予防給付について情報が提供されました。

介護保険については今後更に活発に情報交換がなされ

ることと思います。

このほか、今月の話題になった内容をまとめてみました。

- ・1歳6ヶ月児歯科健診・3歳児歯科健診のマニュアルについて  
各地域の状況について情報交換がありました。沖縄県母子歯科保健指導マニュアルについてはアップロードされ、8020財団のデータバンクにも登録されました。
- ・5歳児乳歯う蝕データについて  
国際的なデータとして重要な5歳児の乳歯う蝕データについて情報交換がされました。
- ・歯科疾患実態調査について（確認）
- ・保健センターを新設するにあたっての備品等について（情報交換）
- ・Yahoo!JAPAN ID取得マニュアルの配信【注1】
- ・メーリングリスト利用上の注意点の配信

以上です。今までのメールについては行歯会のグループページ【注2】で読むことができます。また、アップロードされた資料も閲覧できます【注3】。

今後も、行歯会メーリングリストでの情報交換が活発になされることを期待しております。みなさん、どうぞよろしくお願いいたします。

【注1】前号で掲載した利用マニュアルの追加版として作成されました。メーリングリストの発言番号[00162]に添付されています。また、ブリーフケースにもアップされていますので、ぜひ御活用ください。

【注2】<http://groups.yahoo.co.jp/group/gyoushi-kai/>

【注3】ブリーフケースに保管できるファイル容量の上限は20MB（メガバイト）です。容量が限界に近づくと、とくに重要なものを除いて古いファイルから削除されます。永久的に保存されるわけではありませので、御注意ください。

## ●行歯会発足前夜(その2)ーワッ！ こんな簡単な研修で変わってしまった？ー

静岡県東部健康福祉センター・技監 中村宗達

何故、歯科行政職なのに公衆衛生に逃げ腰なのか？  
まずは「面倒」説。実施に至るまでには障害が多すぎて、どうせうまくいかないし、大変だから積極的になれない。

次に「反対」説。本人の意思としてフッ素には反対。

いや「教育に問題有」説。あなたは、ちゃんと口腔衛生の講義を受けましたか？教授陣は、フロリデーションなどの公衆衛生を教える力量がありましたか？

結果として、教育問題説に焦点を合わせ、平成14年度に以下の調査を行うこととなり、意外な結果を得ました。

対象：全国歯科保健推進研修会参加者のうち歯科医師、歯科衛生士 142 人（回答者 116 人 回答率 81.7 %）

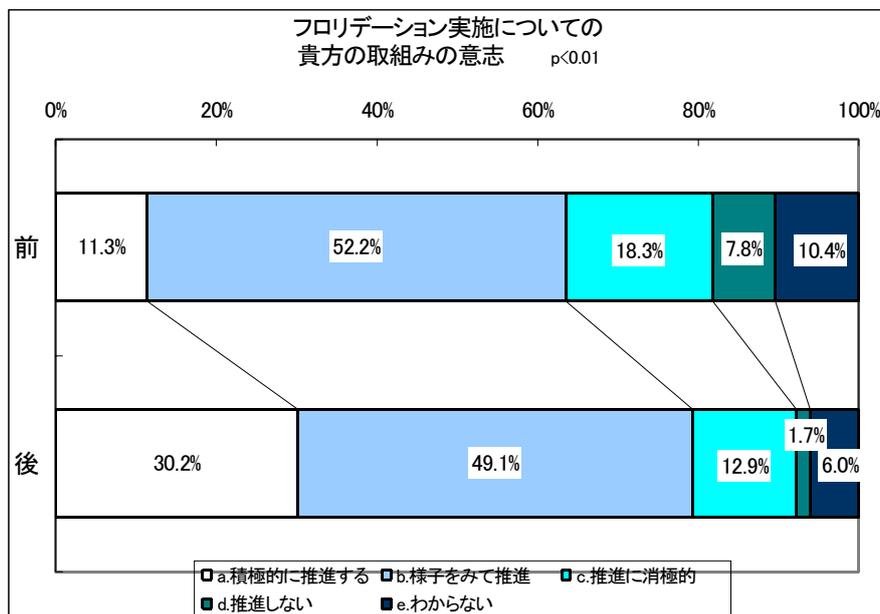
方法：90 分の研修（フッ化物の応用総説：日大松戸小林教授）の前後に自記式アンケート 14 問（フロリデーションに関する知識 3 問、考え 10 問、意志 1 問）

結果：8 項目でフロリデーション推進の方向に有意差のある変化を認めた

考察：ちょっとした研修でこんなに変わるなんて、主原因は情報不足だ。

〈次号につづく〉

さて、デセイの声は良いが、グルベローヴァを超えたと実感させて欲しい！



## ●活動報告

7/14(木)に日本歯科医師会、日本歯科衛生士会、8020推進財団に表敬訪問に行ってまいりました。行歯会としては、初めての本格的な対外活動であり、対外的な認知を受けた記念すべき日といえます。

概要は下記の通りです。

- ・日本歯科医師会  
面談相手：石井常務（地域保健担当）ほか事務局 2 名  
出向者：石上会長、中村理事、安藤（事務局）
- ・日本歯科衛生士会  
面談相手：金澤会長、松田副会長、相川専務  
出向者：石上会長、中村理事、安藤（事務局）
- ・8020推進財団  
面談相手：新井専務  
出向者：石上会長、中村理事、花田・安藤（事務局）

## ●ニュース

### ・平成17(2005)年歯科疾患実態調査について

7月29日に歯科疾患実態調査の説明会が厚生労働省で開催されました（全国の調査対象予定地区の関係者等150名近くが出席）。

調査の基本的な内容は例年どおりですが、未処置う蝕のコードが変更された点、顎関節に関する調査項目（自覚症状に関する質問）が新たに追加されたことなどが主要な変更点です。

本調査は、国民健康・栄養調査とともに本年11月に全国300の調査地区で実施されます。

### ・8020推進財団より

同財団より7月に下記の冊子が発行されました。

- ・歯磨き習慣に関するアンケート調査報告書
- ・永久歯の抜歯原因調査報告書
- ・歯周病と生活習慣の関係
- ・口腔と全身の健康状態に関する文献調査報告書
- ・介護支援専門員に対する口腔ケアの意識調査報告書
- ・平成16年度8020公募研究事業 研究報告書

以上の報告書は、都道府県歯科保健担当課に送付済みです。必要な方は、8020推進財団事務局問い合わせまでください（Tel 03-3512-8020）。また、これらの報告書は、近日中に同財団ホームページからPDFファイルを全文ダウンロードできるようになる予定です。

## ●お知らせ

### 1. 全国歯科保健推進研修会

期日：H17.11.11(金) 13:00- （※ 翌12日は全国歯科保健大会）

会場：新潟市朱鷺メッセ

内容：

- ・講演 「要介護者の口腔ケア（行政・医療機関・病院等の連携を通じて）」（仮題）  
大内 章嗣（新潟大学大学院医歯学総合研究科教授）  
「介護予防における口腔機能向上」（仮題）  
北原 稔（神奈川県茅ヶ崎保健所保健福祉事務所保健福祉課長）
- ・グループ討議「介護予防における口腔機能向上を図るために」
- ・特記事項： 本研修会終了後、各都道府県歯科医師会関係者と行政関係者の懇親会を予定（朱鷺メッセ最上階）。
- ・主旨：介護予防における口腔機能向上は、介護保険制度の新しい取り組みですが、その具体的方法や評価については、未だに十分理解されているとは思えない現状にあります。そこで、大内先生、北原先生にお願いし、課題と今後の進め方について提言をいただき、平成18年度から開始される新しい介護保険制度に対応できるようにとの目的でこの研修会を企画しました。是非多数の行歯会会員の皆さんの参加を求めます。なお、研修会終了後、全国の歯科医師会の公衆衛生担当理事協議会の役員と合流して懇親会を開催する予定です。この企画は初めてのものです。地域で歯科保健事業を円滑に進めるための一助にしたいと考え、日本歯科医師会とも協議を重ねてきたところです。

### 2. むし歯予防全国大会

期日：H17.10.15(土)

会場：香川県高松市（サンポート高松、シンボルタワー・国際会議場）

主催：NPO 法人日本むし歯予防フッ素推進会議（日F会議）

内容：特別講演Ⅰ「フッ化物と健康～フッ化物を正しく理解するために～」

小林 清吾（日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座・教授）

特別講演Ⅱ 「データから考える歯科保健」

真鍋 芳樹（香川大学アドミッションセンター・教授）

シンポジウム「地域住民を主役とした健康づくりのためにーフッ化物の正しい情報を提供する」

パネリスト：小林清書・真鍋芳樹・香川大学医学部看護学科講師、高橋徳昭・愛媛県歯科医師会、渡辺久仁子・香川県仁尾町立仁尾小学校校長／木村年秀・三豊総合病院歯科保健センター／氏家高志・日本歯磨工業会

詳細 <http://www8.ocn.ne.jp/~nichif/>

### 3. 第64回日本公衆衛生学会・総会 (<http://www.e-convention.org/64jsph/>)

H17.9.14(水)～16(金) 於札幌市(札幌コンベンションセンター)

特記 シンポジウム「口腔保健－高齢者に対するポピュレーションストラテジーの課題」(16日 9:30-11:00)

[http://www.ec-inc.co.jp/64jsph/program/16\\_b.htm](http://www.ec-inc.co.jp/64jsph/program/16_b.htm)

自由集会 第24回地域歯科保健フォーラム(15日 17:00-19:00 於札幌産業振興センター)

介護予防への口腔からのアプローチ－高齢者の低栄養とNST－

[http://www.e-convention.org/64jsph/jiyu\\_list.html](http://www.e-convention.org/64jsph/jiyu_list.html)

### 4. 国立保健医療科学院の遠隔教育

受講期間：H17.9.20(火)～12.16(金)

申込期間：～8/25(木)

詳細：<http://www.niph.go.jp/wadai/enkaku/index-h17.htm>

※ なお、歯科衛生士研修は、H18.1.23日(月)～2.7(火)の予定で、10月に申込を受け付ける予定です。

### 5. その他(前号でお知らせした内容)

・第54回日本口腔衛生学会・総会

H17.10.6(木)～8(土) 於東京都品川区

テーマ 「地域口腔保健の近未来」

詳細：<http://pcp.kyorin.ne.jp/dh54/>

## ●書籍紹介

※ 本コーナーでは行歯会会員にとって参考になるとと思われる書籍を紹介します(不定期連載)

### 1. 村上龍「eメールの達人になる」(集英社文庫、¥693)

eメールは慣れると簡単に書くことができますが、その一方でちょっとした表現にも気を遣う必要があり、どのように書いたらよいか悩んでいる方も多いのではないかと思います。eメールの書き方やソフトの使い方に関する書籍は山のように出版されていますが、本書はこれらの書籍とは一線を画す内容で、eメールという最新のIT技術を通じた日本語論・コミュニケーション論です。具体的な事例(文例)も豊富で、eメールの教本として非常に参考になります。

(安藤雄一、国立保健医療科学院・口腔保健部)



### 2. Lone Schou/Anthony S. Blinkhorn 著「オーラルヘルスプロモーション 21世紀の健康戦略」(岡田昭五郎監修、川口陽子/中村千賀子監訳、口腔保健協会、¥7,034)

歯科保健を推進する際には様々な要素が絡み合い、その様相はけっして単純ではありませんが、この点について日本語で書かれた書籍は残念ながらあまり多くありません。その点、本書では、歯科保健を推進する際の中央と地方の関係、また歯科保健の推進は実際どのような組織が力を及ぼすのかといった点などが明確に記されており、歯科保健を進めていくうえで非常に役立つ内容となっています。本書が発行されたのは今から10年以上も前の1994年ですが、現在の日本の歯科保健はこの当時の状況から大きく変わってきています。改めて読み返してみる価値は十分ある本だと思います。

(安藤雄一、国立保健医療科学院・口腔保健部)